

八十二歳になった元生徒 —感激と追憶を—

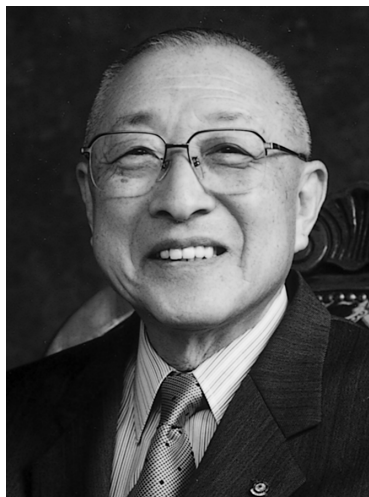
高橋 昌一 (昭和21年卒)

平成二十三年九月二十八日(水)、この日は早朝から雲一つない透きとおるような青空、気温二十五・九度の素晴らしい秋晴れのもと全校生徒九百三十八人と教職員が見守る中、紅白の幕が張られた体育館で「秋田県立秋田中学校 昭和二十一年三月修了生の卒業式を挙行致します。」の開式の辞で式が始まりました。

高橋貢校長から壇上で、われわれ十一人一人一人に六十五年待った卒業証書を授与されました。高橋校長は「困難な時代に希望を失わず生きた先輩の姿に接することは、今の生徒にとって大きな意味を持つ。生徒たちには、生きる意味を真剣に考えてほしい」と式辞を述べられました。私は卒業生を代表し「卒業証書授与式を行っていただき、誠に感無量でありますとともに、喜びも一人であります。戦時中の苦難の中学生生活でも、友情の絆を育み、巣立たせていただきました」と謝辞を述べました。八十代になった元生徒が深い喜びをかみしめた一駒でした。さて、思いおこせば、六十九年前の昭和十七年四月六日に入学を許可された二百八十二名は、大東亜戦争の敗戦により昭和二十一年三月と昭和二十二年三月とに別れて卒業しました。けれども昭和二十一年三月学窓を巣立った百二十三名は、正式な卒業式を挙げられず、卒業証書をいただくことができませんでした。

同窓会だより90号特集

旧制秋田県立秋田中学校の全課程修了の私達の在学四年間を振り返ってみますと、入学早々の昭和十七年七月、五城目町までの一泊の鍛錬行軍旅行、二年次では北秋田郡下川沿村(現在の合併後の大館市の一区域)の農家の田植作業の手伝い、秋田市追分での軍用機の燃料となる松根油の採取作業、



仙北郡雲沢村(現在仙北市角館町雲沢)へ松木内川の洪水による田畑に流入した岩石の除去作業、又夏休二週間返上して秋田市に駐屯する歩兵第十七聯隊へ納入する山菜採りで仙北郡松木内村(現在仙北市西木町松木内)の上松木内小学校に泊まり込みの奉仕作業など、そして三学年からは、秋田市土崎の鉄道省新潟鉄道局土崎工機部(現在JR総合車輛センター)へ勤労動員され、旧制中学校の教育活動はほとんど停止の状態でした。その後、昭和二十年八月十五日ポツダム宣言受諾により大東亜戦争が敗戦、勤労動員令が解除となり、手形校舎で授業が再開されたものの、一ヵ月後の昭和二十年九月十九日に米軍の進駐により校舎は接収されました。われわれは寺内の帝国石油株式会社の鋳手養成所(通称石油学校)を借用し、仮校舎として授業を続けただけではありませんが、石油(原油)増産による社員の急増に伴い、技術養成・社内訓練のため同養成所を出ざるを得なくなり、昭和二十一年二月十二日から、一年生は市内の中通小学校・二年生は築山小学校・三年生は牛島小学校・われわれ四年生は明德小学校と分散授業となり、明德小学校で秋田中学校の四年修了又は四年卒業となったのであります。以上の経過からみれば、四年間の中学校生活は勉強半分、勤労奉仕勤労動員が半分だったと思われまます。然しながら、六十九年前の昭和十七年四月に精学の志をもつて秋田中学校に入學し、ほとんどの期間を戦時中に過ごしましたが、そういう状況の中でも、四年間、教職員の厳しくも愛情ある温かいご薫陶をいただき、友情の絆を育み巣立たせていただきましたことを幸せに感じております。

このことにつきましては、卒業証書授与式の夕刻にNHK・ABS・AKT・AABの各社がTV放映。翌二十九日には秋田魁新報・読売新聞・朝日新聞・毎日新聞が大きく掲載、市井の大きな話題となりました。最後にになりましたが、秋田高校の高橋貢校長のご高配に深く感謝申し上げますとともに村上幸義事務長をはじめ学校関係者、並びに豊口祐一同窓会会長と寺田和夫事務局長のご協力に厚くお礼申し上げます。昭和二十一年三月の卒業生を代表いたしまして卒業式の所感と六十有余年前の追憶を述べさせていただきます。

酒は天下の

太平山

秋田味噌しょうゆ

小玉醸造株式会社
代表取締役社長
小玉真一郎
(昭和49年卒)

湯上市飯田川飯塚字飯塚34-1
TEL 018 (877) 2100
FAX 018 (877) 2104

秋田市民市場の
お魚うまいもの店

川(有)川村鮮魚店

代表取締役
川村 忠
(昭和41年卒)

〒010-0001
秋田県秋田市中通4丁目7番35号
TEL・FAX 018-833-0720

確かな技術と感性撮って選べる記念写真

造酒写真館

造酒興一
(昭和36年卒)

造酒圭吾
(昭和63年卒)

〒010-0905 秋田市保戸野中町1-12
TEL 018-862-4048
FAX 018-823-3001

秋田銀行

頭取
藤原清悦
(昭和37年卒)